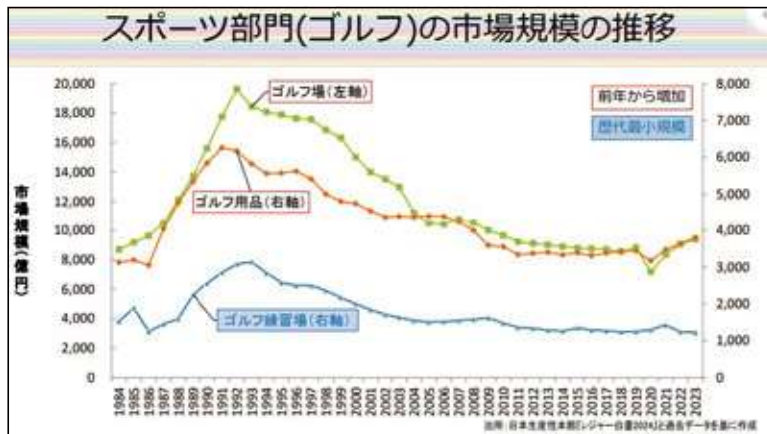


レジャー白書
2024

23年ゴルフ人口530万人、 ゴルフ場市場9390億円



10月31日に「レジャー白書2024」(定価8800円)税込み)が発行され、ゴルフ人口などゴルフ関連データの詳細が判明した。

今年9月号で紹介した速報では2023年のゴルフ(コース)参加率は5.4%で前年の5.3%より0.1Pアップし、2年振りの上昇。今回の白書の発表でゴルフ人口も22年の510万人を20万人、3.9%上回る530万人となり、ゴルフ場市場規模は3年連続で増加した結果となった。

一方で、速報時に参加率が5.2%で前年と同じだったゴルフ練習場は参加人口こそ510万人で前年比10万人、2.0%増となったものの、ゴルフ練習場の市場規模が過去最少となった。余暇市場の変化、ゴルフ関係の性年代別動向とともにレジャー白書の内容を詳報する。

外出を伴うレジャー全般に回復。練習場は反転してブルーに

公益財団法人・日本生産性本部(東京都千代田区)の余暇創研は「レジャー白書2024」の発刊にあたり、10月29日に概要説明発表会を開催した。

発表によると、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類感染症」に引き下げられた2023年は、国内観光旅行などの外出を伴うレジャーをはじめ、多くの活動で参加人口の増加が見られた。2023年の余暇関連市場規模は71兆2140億円で前年比13.4%増加し、コロナ禍前の2019年比で98.5%の水準まで戻った。コロナ禍で大きく落ちた分野の急速な回復が続ぎ、逆にコロナ禍の特需で伸びた分野は反転して落ちた。

余暇活動の参加人口は、「国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)」(4740万人)が22年に続き首位となった。「外食(日常的なものは除く)」が参加人口を増やし2位に上昇。「動画鑑賞(レンタル、配信を含む)」「読書(仕事、勉強などを除く)娯楽と

「レジャー白書2024」など在宅レジャーも引き続き上位となった。一人当たり平均参加種目数は、前年比0・3種目増の10・4種目。主に観光・行楽部門で微増。仕事より余暇を重視する回答者の割合が年々増加し、回答者の約3分の2が余暇を重視している。

余暇の部門別ではスポーツ部門が前年比3・6%増となり、各スポーツ用品、スポーツ観戦が伸び、フィットネスクラブやゴルフ場、スキー場(索道収入)、ボウリング場も堅調。ゴルフ練習場やキャンプ用品、釣具、スポーツ自転車は反動減となった。趣味・創作部門は前年比1・7%増で動画配信、音楽配信、電子出版などのコンテンツ配信は堅調を維持した。娯楽部門は前年比12・6%増でテレビゲーム・ゲームソフト、ゲームセンター・ゲームコーナーはプラスとなるも、オンライン・ソーシャルゲームはマイナス。観光・行楽部門は前年比32・1%増でホテル、遊園地・レジャーランド、旅行業、鉄道、国内航空、会員

制リゾートは増加。自動車は伸びた一方で、二輪自動車はマイナス。

このように4部門全てで増加し、ほぼ平常化がなされたと評価した。2019年比では観光・行楽が20年に56・6と大きく落ち込んだが23年に97・9まで回復、部門別ではスポーツ部門が20年に84・1で趣味・創作の90・5に次ぎコロナの影響が少なかったが、23年は103・9と最も伸びた部門となった。

ゴルフ関係のデータは速報版で23年の参加率はゴルフ(コース)が5・4%(前年度5・3%)で、年間平均活動回数でもゴルフ(コース)が17・3回(14・6回)と伸びたが、1回当たりプレー費用は9514円で24・2%減だった。参加率の回復は少しだったが、プレー回数の増加でゴルフ場の賑わいを反映するデータでもあった。参加人口は白書の本書の中で、ゴルフ(コース)が530万人と明らかになり、22年に40年来の最少だった510万人から3・9%

「レジャー白書2024」データ

対象年	2019	2020	2021	2022	2023	率	
レジャー白書タイトル年	2020	2021	2022	2023	2024		
コース	市場規模(億円)	8,820	7,180	8,340	9,050	9,390	3.8%
	参加人口(万人)	580	520	560	510	530	3.9%
	(対前年・増減)	▲90.0	▲60.0	40.0	▲50.0	20.0	
	(対前年・%)	-13.4%	-10.3%	7.7%	-8.9%	3.9%	
	コース参加率(%)	5.8	5.3	5.7	5.3	5.4	1.9%
	コース参加希望率(%)	7.3	8.0	7.3	7.3	6.7	-8.2%
	プレー回数(回)	13.3	14.9	17.2	14.6	17.3	18.5%
	年費用(千円)	143.6	151.5	135.8	183.2	164.6	-10.2%
1回当たり費用(円)	10,797	10,168	7,895	12,548	9,514	-24.2%	
用品	市場規模(億円)	3,440	3,170	3,470	3,640	3,800	4.4%
	市場規模(億円)	1,250	1,300	1,430	1,240	1,230	-0.8%
	人口(万人)	550	530	570	500	510	2.0%
	参加率(%)	5.5	5.4	5.8	5.2	5.2	0.0%
	練習場参加希望率(%)	6.4	7.4	6.7	7.0	6.0	-14.3%
	年間活動回数(回)	19.7	18.7	19.7	20.2	21.2	5.0%
年費用(千円)	22.7	29.0	27.6	27.8	26.3	-5.4%	
1回当たり費用(円)	1,152	1,551	1,401	1,376	1,241	-9.9%	

公益財団法人・日本生産性本部 余暇創研 「レジャー白書2024」より

増加した。また参加率が5・2%(5・2%)だったゴルフ練習場人口は510万人となり22年より10万人、2・0%の増加となった。

「今回は平穏な結果かな」と思っただけで発表を聞いてみると、スポーツ部門のゴルフ市場規模推移

グラフが冒頭のように揭示された。30年前のバブル当時に大きな山を作り、その後右肩下がりのお馴染みとなったグラフ。ゴルフ場とゴルフ用品はコロナ禍を契機に回復基調で前年比増と表示されたが、ゴルフ練習場は文字背景もブルーだった。

レジャー白書の概要説明会で解説を行っている桜美林大学ビジネススマネジメント学群(レジャー産業論)の山口有次教授は「ゴルフ場、ゴルフ用品とも基本的には戻ってきましたが、一方でゴルフ練習場はコロナ禍で伸びた反動もあり、むしろ過去最少の規模の市場

にとどまっています。ゴルフ場、ゴルフ用品とも伸びてはいませんが、先々を考えますとゴルフ練習場が活性化していかないとプレーヤーが増えていかないう見方もあるかと理解します」と説明した。

余暇市場は全般的に単価増、体験の価値や推し活注目される

余暇関連市場の傾向は、全般的に値上がりが進行し、単価が上がったことが寄与したと説明した。コロナ禍前からみられ、コロナ禍で加速したレジャー活動のネット化、デジタル化傾向は伸び率は落ち着いても継続。逆に、スポーツ観戦や鑑賞レジャー、ゲーム、公営ギャンブル、カラオケ、テーマパークなどにおいて、その時しか味わえないライブ感のある体験の価値が増している。またコスパやタイパを求める一方で、「推し活」のためにはお金も時間も惜しまない傾向が強くなったという。

では、「レジャー白書202

4」本書からゴルフ関連データ
を細かく見ていきたい。

コース参加率で最も高いのは、男性（男性全体の参加率は1・0 P増の9・3％）70代の15・5％で前年の14・8％より0・7ポイント（以下P）増加した。コロナ禍中は低下した形だが、団塊の世代を含む70代はゴルフに熱心で存在感が戻った形だ。次の男性60代は11・8％で前年比は0・5 Pダウンし男性では唯一ダウンとなった。以下、50代は0・5 P増の9・4％にアップ、30代は2・9 P増の9・0％、40代が8・5％で1・6 Pアップした。20代は1・3 P増の3・7％、10代は前年0から2・9％となりそのままポイントアップとなった。

男性のゴルフ練習場では70代の14・7％（0・3 P増）、60代9・8％（1・2 P増）、40代8・1％（1・6 P増）、30代8・1％（1・6 P増）、50代7・1％（2・5 P減）、20代5・6％（2・7 P増）、10代は前年0から4・9％となり

そのままポイントアップした。

一方女性のコース参加率（全体では0・8 P減の1・6％）では、70代2・4％（0・2 P減）の次は10代2・2％（1・1 P増）、40代2・2％（0・5 P増）、50代1・7％（0・7 P減）、20代1・5％（1・0 P増）となり、60代は1・1％で4・3 Pダウンとなった。ゴルフ練習場でのトップは10代で4・5％（3・4 P増）と大幅増加したが、次は60代2・7％（2・4 P減）、20代2・4％（0・4 P増）など増減が激しかった。

白書では男女合計の年代別構成比も発表しており、コース参加の年齢別では70代26・7％、60代25・5％、50代19・3％の順で占めている。その構成比から人口を算出するとコース人口530万人のうちの70代が133万人、次に50代101万人、60代と40代が95万人となり、団塊ジュニアを含む年代が60代に匹敵する人数となる。ゴルフ場での延べ利用者数は消費額が年代別でもっとも多い60代が40、

50代よりもかなり多くなるとみられるが、50歳前後の人口の多い団塊ジュニアの参加率や人口が増えているのはゴルフ場営業を持続可能な市場規模で維持するのに欠かせないため心強い傾向だ。

なお男女比の人口割合はコースが男性85・5％で前年より8・8 Pも上昇した。ゴルフ場支配人会の23年のゴルフ場延べ利用者に占める女性の割合は14％台にまで上昇しているため数値的には符合するようだが、女性は男性より利用回数が少ないため、今回の白書調査では女性の特に高齢者の回答割合が弱目に出たようだ。このため市場性を見るためには3年平均の方を見ておきたいところだ。

思い返すと、「レジャー白書2006」では、団塊の世代を対象にした特別レポートを行い、将来予測を行っていた。ゴルフコースで50代以上が参加者に占める割合は当時59・1％、60代以上は35％で、「シニア化種目」として位置づけ、2005年時

男女・年代別のゴルフ参加率

		男女 全体	男性							
			男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
ゴルフ (コース)	2023年 (%)	5.4	9.3	2.9	3.7	9.0	8.5	9.4	11.8	15.5
	対22年 (P)	0.1	1.0	2.9	1.3	2.9	1.6	0.5	▲0.5	0.7
	3年平均	5.5	9.0	2.1	3.1	7.3	6.9	9.8	12.4	15.7
ゴルフ (練習場)	2023年 (%)	5.2	8.6	4.9	5.6	8.1	8.1	7.1	9.8	14.7
	対22年 (P)	0.0	0.8	4.9	2.7	1.6	1.6	▲2.5	1.2	0.3
	3年平均	5.4	8.5	2.8	3.9	7.4	6.7	8.8	10.3	15.2
			女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
ゴルフ (コース)	2023年 (%)	1.6	2.2	1.5	0.0	2.2	1.7	1.1	2.4	
	対22年 (P)	▲0.8	1.1	1.0	▲1.8	0.5	▲0.7	▲4.3	▲0.2	
	3年平均	2.1	1.5	1.7	1.1	1.9	2.1	3.1	2.6	
ゴルフ (練習場)	2023年 (%)	1.9	4.5	2.4	0.9	1.8	1.3	2.7	1.4	
	対22年 (P)	▲0.7	3.4	0.4	▲0.5	▲0.9	▲1.5	▲2.4	▲0.6	
	3年平均	2.4	2.2	2.3	1.7	2.4	2.2	3.5	2.1	
男女全体			全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
2023年コース人口 (万人)			530	15	33	59	95	101	95	133
2023年コース人口 (構成比)			100.0	2.8	6.2	11.2	17.9	19.0	17.9	25.1
対前年比			3.9%	385.0%	89.5%	13.0%	31.0%	2.3%	-27.1%	-2.3%
3年平均コース人口 (万人)			533	10	30	56	77	104	115	140
3年平均コース人口 (構成比)			100.0	1.9	5.5	10.5	14.5	19.5	21.6	26.3
2023年練習場人口 (万人)			510	27	50	59	89	77	91	118
2023年練習場人口 (構成比)			100.0	5.2	9.8	11.6	17.4	15.0	17.9	23.1
対前年比			2.0%	784.0%	72.3%	13.8%	13.0%	-29.2%	-10.1%	-8.0%
3年平均練習場人口 (万人)			527	14	38	61	80	97	102	132
3年平均練習場人口 (構成比)			100.0	2.7	7.2	11.5	15.2	18.3	19.3	25.0
男性			計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
2023年コース人口 (万人)			453	9	24	59	77	86	86	112
2023年コース人口 (構成比)			85.5	1.7	4.5	11.2	14.5	16.2	16.2	21.2
対前年比			15.8%		67.0%	45.5%	32.2%	10.0%	-1.0%	-0.8%
3年平均コース人口 (万人)			432	6	19	49	61	87	91	119
3年平均コース人口 (構成比)			80.9	1.1	3.5	9.1	11.5	16.3	17.0	22.3
2023年練習場人口 (万人)			419	15	35	53	74	65	71	106
2023年練習場人口 (構成比)			82.1	2.9	6.9	10.4	14.5	12.7	13.9	20.8
対前年比			12.6%		101.1%	21.9%	34.5%	-23.3%	16.2%	-4.0%
3年平均練習場人口 (万人)			410	8	24	50	59	78	76	115
3年平均練習場人口 (構成比)			77.9	1.5	4.5	9.4	11.4	14.9	14.3	21.9
女性			計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
2023年コース人口 (万人)			77	6	9	0	18	15	9	21
2023年コース構成比 (%)			14.5	1.1	1.7	0.0	3.4	2.8	1.7	3.9
対前年比			-35.3%	90.5%	194.4%	-100.0%	26.2%	-27.3%	-79.2%	-9.9%
3年平均コース人口 (万人)			102	4	10	7	16	18	25	23
3年平均コース人口 (構成比)			19.1	0.7	1.9	1.3	3.0	3.4	4.7	4.2
2023年練習場人口 (万人)			91	12	15	6	15	12	20	12
2023年練習場構成比 (%)			17.9	2.3	2.9	1.2	2.9	2.3	4.0	2.3
対前年比			-28.7%	291.0%	28.6%	-28.0%	-37.1%	-50.1%	-49.6%	-33.0%
3年平均練習場人口 (万人)			116	6	14	11	21	19	28	18
3年平均練習場人口 (構成比)			22.1	1.1	2.6	2.0	4.0	3.6	5.3	3.4

公益財団法人・日本生産性本部 余暇創研「レジャー白書2024」より。年代別人口や男女全体構成比はで全体人口から算出

そのヒントになるのは、プレーに熱心なメンバーの活性化であり、ゴルフ業界が力を入れて出している将来人口醸成のための高齢者のゴルフ離れ阻止と次世代、若者、女性、ジュニアの育成であるのは間違いないところだ。

ウインドの後押しもあるが、単価上昇でも市場が拡大する観光・行楽、参加人口が限定的でも堅調なデジタル化と推し活など余暇市場のトレンドは見えつつある。物価高騰と未曾有の人材不足と課題は山積みだが、益々進む超高齢少子化の中での持続可能なゴルフ市場戦略を見極めて高めておきたいところだ。

点の参加人口980万人は2020年670万人となり、2005年の3分の2の68%に減少するとした。当時は悲観過ぎる

予測と見られたが、現実はその下回ったのは表にある通り。それでも、ゴルフ市場規模は当時とも変わらず、ゴルフ場

が減少したため逆に1ゴルフ場当たり利用者数は現在の方が余裕で上回っている。いよいよ来年には2025年

が到来するが、ゴルフ場はシルバー市場の特性に支えられて、急激に市場が悪化する危険性は少ないのかもしれない。インバ